

## イザベラ・バードの足跡をたどり 黒沢峠などを歩く

小国など

英国の女性旅行家イザベラ・バードが旅した県内ルートの魅力を再発見するツアーが8、9の両日、小国町などで行われ、旧越後街道十三峠の大里峠、黒沢峠などを歩いた。

「アルカディア街道I・B倶楽部」(錦啓会長)が第2回研修会の旅として募集し、県内9人、首都圏6人の計15人が参加。初日は大里峠、萱野峠、2日目は黒沢峠、宇津峠などを歩いた。ガイドの森林インストラクター舟山功さん(小国町)から十三峠の



イザベラ・バードの足跡をたどり、大里峠を歩く参加者

歴史、文化や動植物などの説明を受けながら散策を楽しんだ。

8日夜は同倶楽部副会長で山形教育用品社長の渋谷光夫さんが出版した「イザベラ・バードの山形路」をめくり、各自のバード論などを語り合った。

バードは1878(明治11)年に東北、北海道などを旅行。十三峠を越えて本県に入り、置賜盆地を「アジアのアルカディア(桃源郷)」とたたえた。同倶楽部は、バードが歩いた県内ルートの探訪などを通じて地域活性化を図ろうとことし発足し、6月に第1回研究会の旅として南陽市、金山町を訪ねた。